

スポーツと結ぶ世界

東京2020大会に向けてJALにできること

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）のオフィシャルエアラインパートナーであるJALは、大会そのものや日本代表選手団を盛り上げるさまざまな活動を継続的に行っています。日本の翼として世界を結んできたJALが、2020年に向けていくつもの夢の結実を目指す取り組みを紹介します。

スポーツの祭典と 深いかかわり

JALとスポーツ、JALとアスリートとのかかわりは多岐にわたります。例えば、選手や関係者の皆さまの移動、競技用具の輸送をはじめ、大会への支援・協賛などさまざまな形でスポーツを支援することで、その発展に貢献してきました。なかでもオリンピック・パラリンピックに代表される世界的なスポーツの祭典とのかかわりには特別なものがあります。そして2020年、半世紀を経て再び日本の首都に戻ってくる東京2020大会においても、オフィシャルエアラインパートナーとして大会運営や日本代表選手団をサポートしていきます。

オリンピック・パラリンピックとJALの歩み

- 東京1964オリンピックでアテネからの聖火を輸送。
- 札幌1972冬季オリンピックのオフィシャルエアラインに指定。ギリシャからの聖火を輸送。
- 長野1998冬季オリンピックの聖火を輸送。この大会から、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)のオフィシャルエアラインパートナーとして、輸送によって活動を支援。
- 2005年に日本パラリンピック委員会(JPC)のオフィシャルエアライン、日本障がい者スポーツ協会(JPSA)の最初のオフィシャルパートナーとなる。

スポーツ支援を通じて 次世代を育成

JALは、東京2020大会を成功に導くための取り組みの一つとして「JALネクストアスリートプロジェクト

ト」を展開しています。このプロジェクトには「スポーツ能力測定会」、そして「パラリンピックを目指すアスリートの発掘」という二つの柱があります。

一つの柱の「スポーツ能力測定会」は、子どもたちに自身の可能性に気づき、挑戦する夢を抱いてほしいという思いを込め、2020年までに全国47都道府県で開催していきます。既に熊本(5月)、大分(7月)、福島(8月)、秋田(9月)、釧路(10月)で5回実施し、これまでに約1400名の子どもたちが専用の測定機器を使ってスポーツ能力を測り、一人一人の特性に合ったスポーツに出会えるよう専門家によるアドバイスを受けました。

「測定会にはトップアスリートをゲストとしてお招きし、子どもたちにス



JAL NEXT ATHLETE PROJECT



「スポーツは人々を元気にする力がある」との確信のもと、JALはこれまでさまざまな形でスポーツの普及・発展に向けたサポートを展開してきました。しかし人気のある競技や実績のある選手と比べて、知名度が低い競技やアスリートの練習環境は十分ではないことが多く、金銭的な事情で海外遠征を断念することもあるのが現実です。そこで、次世代アスリートが世界に挑戦できる環境づくりを皆でサポートするために、JALがエアラインならではのアプローチで作り上げた仕組みが「JALネクストアスリート・マイル」です。

2014年にスタートしたこのプロジェクトは、JALがお客さまから2000マイルごとに寄付を受け付け、それと同じマイル数を上乘せしめて、競技団体へ寄付するという仕組みになっており、マイルを活用することで企業だけでなくお客さまとともにアスリートをサポートできる点が特長となっております。2014年のスタートから2017年3月末までの3年間に、お客さまからご協力いただいたマイルとJALの拠出を合わせて、

マイルを活用して 次世代アスリートを応援

日本にパラリンピックスポーツを 広めるために

二つめの柱である「パラリンピックを目指すアスリートの発掘」は、東京2020大会への出場を目指すパラリンピック推進部統括マネジャー・阿川淳之。実際に測定会に参加した子どもたちは「もっと早く走れるようになるよ、と言われてうれしかった」「意外なスポーツに向いているとわかってビックリした」などと反応もさまざま。専門家からのフィードバックには、保護者の皆さまが子どもたち以上に真剣に耳を傾ける場面も多く見受けられました。



東京2020オリンピック・パラリンピック推進部 統括マネジャー 阿川 淳之

合計3219万マイル以上の寄付を行い、19競技団体の選手の強化費や用具購入費に活用いただいています。

「集まったマイルの多さもさることながら、幅広い年齢層のマイル保有者の方々から寄付をいただいております。次世代アスリートへの期待の高さ、さまざまな競技を支援することへの関心の強さを実感しています。今後ともJALは精力的にこのプロジェクトのPRに努め、一人でも多くの次世代アスリートの可能性を広げる機会を提供し、皆さまとともにサポートし続けたいと考えています」(阿川)

JAL全体で 2020年を盛り上げたい

JALは東京2020大会のオフィシャルエアラインパートナーとして、大会を盛り上げることは重要な責務であると考えており、その一環として、2020年に向けて大きな期待のかかる短距離走の土井杏南選手、三段跳の山本凌雅選手の採用を内定しました。2人の採用は現役引退後もJAL社員として勤務することを前提としています。目標に向かって高みを目指すアスリートを仲間を迎えることで、東京2020大会への機運を盛り上

リンピックスポーツアスリートの発掘を目的としており、各競技団体とも連携しながら行うものです。

パラリンピックスポーツが日本に根づき、盛り上がりつつあるためには競技人口の拡大によって選手層の厚みを増していくことが不可欠ですが、もともと競技・クラスによってばらつきが大きいと言われてきました。このプロジェクトの開始にあたり、各競技団体との対話を通じて見えてきたパラリンピックスポーツの現状と課題について、東京2020オリンピック・パラリンピック推進部主任・谷口朋代は次のように語ります。

「障がいのある方の中には、スポーツに興味はあっても自分に何ができるかわからない、もしくはスポーツなんてできないと諦めてしまっている方が多くいます。また、もともとアスリートだった方が後天的に障がい者となり、スポーツをやめてしまったケースもあります。私たちはこの取り組みを通じて、こういった方々に適性のあるスポーツをご提案し、アドバイスを行うとともに、メダルを狙えるパラリンピックスポーツアスリートを開発しサポートすることで、パラリンピックスポーツの競技人口の拡大、そして東京2020大会の成功に貢献したいと



東京2020オリンピック・パラリンピック推進部 主任 谷口 朋代

考えています」

発掘に向けては専用メールアドレスを用意し、ご連絡をいただいた方に面会した後、測定を実施。優秀な測定結果を得た方は競技団体に紹介し、そこでより詳細なチェックを行った結果、「可能性あり」と判断された場合は強化指定、大会への参加といった形で道が開けていくこととなります。

「パラリンピックスポーツはまだまだ認知度が高いとは言えませんが、実際に接してみればすぐに魅力を感じていただけると思います。JALの取り組みを通じて、社員をはじめとする多くの人々がパラリンピックスポーツに関心を持ち、スポーツを楽しみながら自然と障がいについての理解を深めていくことで、『心のバリアフリー』が世界に広がることを強く願っています」(谷口)



山本 凌雅選手



土井 杏南選手

げるとともに、アスリートの視点をJALの商品・サービスに活かしていきます。そして、これまで以上にJAL一丸となってスポーツに熱意を込めて取り組んでいきます。

2020年、JALは航空会社として、各国の選手団や関係者の方々、世界中から日本を訪れる人々を安全・安心はもろろんのこと、快適・定時にお運びし、日本のおもてなしをさまざまな場面で感じていただけるよう努めていきます。